

日本養豚学会会員および養豚関係者各位  
COVID-19 感染予防に対して

先週末より都市部で COVID-19 感染者が急増しており、医療機関では崩壊のシナリオが想定されるようになっていきます。まさに、CSF(豚熱)の危機にさらされた地域の関係者各位がその状況に気の休まらなかった状態が人を対象として全国で展開しています。COVID-19 は対象が我々人類であるため、人が媒介する可能性のある豚熱よりも、はるかに現実には厳しい状態です。医療の崩壊となれば、近い将来、本来助けられるはずの命が助けられなくなる事態になることが海外の事例でも明らかです。

医療機関では生きたいという思いに対して、全力で救命医療が取り組まれています。このまま感染が拡大すれば、「助ける命を選択する医療」にシフトしなければならないといった、豚熱の感染農場での惨事のような本当に悲しい対応が取り組まれる可能性もあります。

感染拡大を予防するために、外出を控え、人と会わないでください。感染を食い止める方法はこの感染症ではこれしかありません。生きていくための最低限の外出だけにしてください。このメッセージを出来る限りの家族や友人にシェアしてください。ほとんどの感染者は食事中に感染しているようです。主となる3つの経路は

- ①感染者から咳やくしゃみで散った飛沫を直接吸い込む、
- ②飛沫が目に入る、
- ③手指についたウイルスを食事と一緒に嚥下してしまう、です。

感染にはウイルス粒子として約 100 万個が必要で、一回のくしゃみ、咳あるいは大声の会話で約 200 万個が飛び散ります。マスクを着用しているとかなりこの飛散と吸引を防ぐことができます。そして、マスクをした上でなるべく鼻で息を吸いましょう。口呼吸はウイルスを肺の奥に吸い込むのでダメです。食事は対面で食べず、食事中は会話しないで、食事に集中しましょう。会話は食事後にマスクをして行いましょう。

最低限の外出中には手で目や鼻、唇を触らないでください。意外と難しいですが、気にしていれば大丈夫です。家に帰ったら、玄関口に消毒のアルコールがあれば、吹きかけて、ドアノブを拭き、すぐに手を洗いましょう。

要点は以下の4項目です。

- ①マスクと眼鏡の着用
- ②手指の洗浄と消毒
- ③食事は対面では行わず、短時間で済ませる
- ④帰宅時は先にシャワーを浴びてから食事

日本養豚学会からの提言